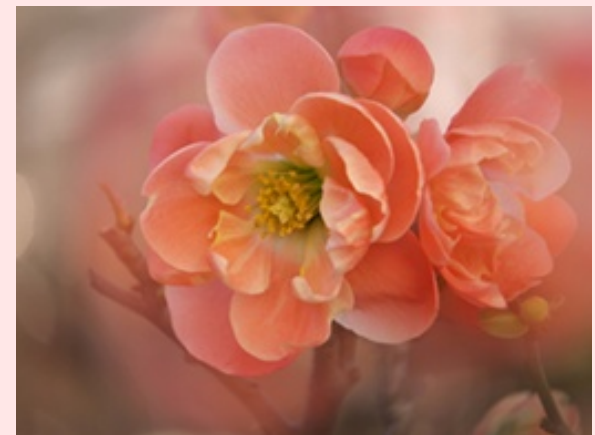


インマヌエル中目黒キリスト教会 2013年11月24日聖日礼拝

「第三幕 詩編23篇を思いめぐらす」

詩編23篇1-6節

河村従彦 牧師



聖書朗読

旧約聖書

詩編23篇 1 – 6 節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp849~/ 第三版の聖書はp926~

- 1 主は私の羊飼いです。私は、乏しいことがありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。
- 4 たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

- 5 私の敵の前で、あなたは私のために
食事をととのえ、私の頭に油をそそいで
くださいます。私の杯は、あふれています。
す。
- 6 まことに、私のいのちの日の限り、いつく
しみと恵みとが、私を追って来るでしょう。
私は、いつまでも、主の家に住まいま
しょう。

説教

「第三幕

詩編23篇を思いめぐらす」

詩編23篇1-6節

河村従彦 牧師



詩篇23篇の背景

- 1 牧歌的イメージが先行、しかし実は非常に厳しい環境だった
- 2 このときはすでに定住していた
- 3 ヘブルの民は、神さまを羊飼いのような方だと考えていた

詩篇23篇の構成

- 第1幕 牧者のイメージ
- 第2幕 客をもてなす主人のイメージ
- 第3幕 総括

詩篇23篇の結論部分

- 1 人生は、神さまの恵みが追ってくる世界である
- 2 人生は、神さまの家に帰り、そこに住むことである

I 神さまの恵みが追ってくる

A 恵みとわたしたちの人生

B 「追ってくる」の意味

- 1 「どこまでも追い求める」という意味
- 2 下から上ではなく、上から下へ

C 追ってくる恵み

1 旧約聖書

選ばれた民に対する神さまの不変の愛

2 「過分の愛」

ギブ・アンド・レシーブを越えるもの

3 人間関係の中ではあまり見られない関係

4 神さまとの関係の本質 ～過分の愛

D 「過分の愛」がもたらすもの

1 恵みの意識に深めていただける

2 生きるための軸を太くしてくれる

II 神さまの家に住む

A 用語から ～「家」と「住む（帰る）」
主の家に帰り、たましいが生き返るように
される

B 主の家について

1 家のイメージ

- (1) 心のふるさと
- (2) 深い関係性

2 神さまの家

- (1) 神さまが与えられるふるさと
- (2) 神さまとの深い関係がある場所

II 神さまの家に住む

C 神の民の孤独

- 1 聖書の流れ →詩篇23篇も
- 2 わたしたちの現実
- 3 わたしたちの信仰～孤独から守られる恵み

D 神さまの目線から自由になりたいという欲求

- 1 聖書の流れ
- 2 わたしたちの現実～人間が家で成長する意味
- 3 わたしたちの信仰～神さまを恐れなくて生きる恵み

まとめ

「主の家に住まいましょう」とは、神さまの目線が鬱陶しくて、自由がほしいと言っていたところから成長して、愛と信頼の関係に生きることが出来る恵みのこと

E 恵みと規律 ～パウロが目指したロマ8章の世界

F 神さまを恐れない人生

- 1 恵みが追ってくるというくらい、過分な愛をもって愛していただくこと
- 2 神さまとの関係が、取り引きではなく、信頼の関係だということに気づくこと

しめくりに

- 1 「主は私の牧者、私は乏しいことがない」
人の幸せは、目に見える形のほしいものを
手にすることだけにあるのではなく、実に絶
妙なところで、わたしたちが滅びないように
守られ、また本当の意味で祝福を受ける
ことができる線がある
- 2 どこでも通用する可能性のある人生観
- 3 この方にわたしたちの生涯の全部を
お任せして